

# C O R R E N T E

Centro Culturale Italo-Giapponese

## \*ローマで双子育児④\*

浅田 朋子

今年の夏も双子を連れ、義両親の別荘があるサンタマリネッラに避暑に訪れた。夫は仕事があるので週末だけ来て、普段は私と義両親と子供たちで過ごす。海の家のように遊べる広い庭で思う存分走り回り、海辺で水遊びし、1歳10ヶ月になった娘たちは毎日本当に楽しそうである。

イタリアでは子供の夏休み中、祖父母が孫を別荘に連れて行き面倒をみていることが多い。両親が共働きなら、週末や両親の休暇のあいだは皆一緒に過ごす。学校の夏休みが3ヶ月にもなるイタリアでは、共働きの夫婦にとって、子供の預け場所を見つけるのは本当に頭の痛い問題である。日本のように児童館や学童のような施設が充実しておらず、あったとしても全て有料で、そのうえ預かってくれる時間が短い。そうなると、頼みの綱はおじいちゃん、おばあちゃんだ。3ヶ月ものあいだ孫の面倒をみるのは、楽しさを乗り越えて、もはや子守りの仕事のようなもの。疲れ切った顔をしたおじいちゃん、おばあちゃんが泣きさげぶ孫の手をひきながらポーッと歩いているのをよくみかける。

サンタマリネッラはローマから約50キロのところにある海沿いの小さな町で、ローマ市内に住む人たちにとって車で約30分程度で行ける便利な避暑地であることから、ここに別荘を持つ人が多い。海岸沿いにはたくさんのホテルが並び、浜辺のプライベートビーチにはパラソルが密集して立てられている。イタリアでは遊泳できそうな浜辺のほとんどがプライベートビーチになっていて、有料になっている。海辺沿いに別荘を持たない人はこ

のホテルがもつプライベートビーチを夏の間借りすることが多く、私たちも、義母が何十年も夏の間契約しているホテルのプライベートビーチに毎年通っている。



このホテルのビーチは宿泊客用、日貸し客用、夏期契約(6月半ば~9月半ば)客用の3カ所に分かれている。私たちの夏期契約客用の場所にはビーチパラソルが15ほど並べられていて、1パラソルにつきビーチベット2台付きで貸し出されており、日貸しは30ユーロ、夏期契約は800ユーロである。

この夏期契約客はだいたい毎年継続してくるので、20年もこのホテルのビーチに通う義両親は当然全員顔なじみであり、オーナー家族とも知り合いである。夏期契約組は毎年3ヶ月ここにバカンスにきて、この一年にためた話題を各自報告し、

うわさ話で盛り上がる。このビーチの夏期契約組の面々が、なかなか個性的なのである。

義母がいちばん親しくしているのがマティルデ。元雑誌記者で本も出版している。若い頃はものすごい美人で、有名な俳優の恋人だったらしい。未婚で年齢不詳、たぶん75歳ほどではないかと義母は言う。彼女の両親が資産家で、その両親が早くに亡くなり、その遺産を一人娘であった彼女が全て相続したので、相当なお金持ちであるようだ。仕事も趣味でやっていたようなものだ。親戚も早死や子供がいない人が多かったので、90歳のいとこが一人いるだけらしい。彼女は邸宅に一人で暮らしており、今は恋人もなく、4匹の飼い猫を溺愛しつつ日々優雅に暮らしている。このねこちゃんたちのために「ネコシッター」みたいなお手伝いさんまでいるらしい。

ある日「遺産相続する人がいないから、誰か、私が気に入ったひとにあげるの～」とマティルデが言った。それを聞いた義父は毎日双子に「マティルデおばさんってよぶんだぞ。マーティー、マーティー」と教え始めた。そのかいあってか、はじめて会ってすぐに「マーティ」と呼び、彼女は大喜び。私が妊娠中から双子に会うのをとても楽しみにしていたマティルデは「なんて物覚えのいい、賢い子なんでしょう～」と感動していた。いや、毎日家で練習させられてますねん。義母はそんな義父と双子の練習風景をみて「ほんと、あの人がおかしい。狂ってるわ・・・」とあきれていたが。

この夏期契約組には、私に産婦人科医を紹介してくれた義父の友人である心臓外科医も毎年来る。彼のほかに循環器、胃腸科の医師、外科医と医療関係者多く、義父は「ここで倒れても助かるな」と笑っていた。しかし実際は外科医の65才が日射病で意識を失って倒れたことがあり、心臓外科医が応急処置をおこなうという、何とも情けない事件がおこった。義父には「残念ながら、こんなありさまなんだから、安心しないように」と念をおしておいた。

その医療関係者の中に、助産師のステファニーヤがいる。50歳の彼女、とても助産師にはみえない外見をしている。海で肌を焼く前にすでに日焼けサロンに通っているの、肌は小麦色をとおりこして黒く、首やお腹、足首に入れ墨をしている。

もともとスタイルがよく美人なのに、日焼けのおかげで肌が老化してしわが目立ってきたので、それを補うために顔の整形を繰り返している。さらに豊胸手術もして、昨年ヒップアップさせるためにとうとうお尻まで整形し、なかなかのサイボーグぶりである。きれいなのであるが、なんというか人工感が半端なく、全体から「これでもかー」というくらい色気が漂っていて、ちょっと近寄りたいたい感じなのである。そんな助産師、この世の中に存在すると思ってなかったの、はじめてあった時の衝撃は忘れられない。しかし仕事はできる人であるようで、産婦人科医からの信頼も厚いらしい。もし私が自然分娩で出産だったら、義両親の友人である彼女にお世話になっていたかもしれないが、私は多胎妊娠であるため帝王切開だったので、産婦人科医のもとに通った。この私の産婦人科医との会話でたまたまステファニーヤの名前がでたときに「あ～、よく知ってるよ、助産師のステファニーヤね・・・ふふふ。研修時代、病院で一緒だったんだよ～」とにやけていた。私のこの産婦人科医もチャラツとした女遊びの好きそうな軽い雰囲気ので医者だったので、夫と「絶対あの二人、なんかあったな」と確信した。その話を義母に言うとうとう「もう、産婦人科界、どうなってんのよ・・・」とため息をついていた。



ステファニーヤはバツ2で、父親の違う娘が2人いる。この娘たち、バカンスベイビーというべきか、ステファニーヤがこのビーチで知り合った男性とのあいだにできた子供たちなのである。最初の娘が産まれて結婚し、その娘を連れビーチに家族でやってきた時に、ビーチで若い男と知り合い、家族の前でいちゃいちゃしていたらしい。義父曰く「あの夏は、もう、それはそれはみんな固唾をの

## イタリアンレストラン紹介

～大阪～

Osteria 87

イタリアを代表するスパークリングワイン、「フランチャコルタ」を専門で提供する、世界初のお店です。乾杯や最初の1杯だけでは済まされないワインです。

ブレーシャ地方料理とお楽しみ頂けます。

特典(日本イタリア会館会員証をお持ちの方)  
ドルチェ1品サービス

(期間:9/30まで)

住所: 大阪市北区曾根崎 1-6-23

サクセスビル 1階

電話: 06-6360-9508

HP: <http://ameblo.jp/franciacorta87/>



んで見守っていたよ。あんなに緊張した夏はなかったらしい。その後、ステファニーの奔放さに耐えきれなかった1番目の夫が家を出て行き、この若い恋人と結婚して2番目の娘ができたらしい。その後また離婚し、いまはフリーであるが、常に恋人がいる。

今年はレントゲン技師の彼を連れてきて、いちやついていた。相手は妻子持ちで、同じ病院で働いているらしい。しかも彼の奥さんの出産に立ち会ったのがステファニーだったらしい。もう、なんでもありである。

双子が今年初めてステファニーに会ったとき、その外見と独特の雰囲気「泣くだろうなあ」と予想していたが、彼女が顔を寄せて「チャオ、双子たち」言うと、ニコ〜と笑った。そして頭をなでられると、気持ちよさそうにされるがままになっていた。「私の手には、たくさんの赤ちゃんのにおいがしみついているから、気に入ってくれるのよ」と笑っていた。その時のステファニーの顔は、観音様みたいに穏やかできれいな顔だった。

そんなステファニーの意外な側面を見て、せっかくあたたかい気持ちに浸っていたというのに、私の横でひそひそと「あーいう意外な顔に男はコロっといくんだな」と義父と心臓外科医がささやいて、私の気分をぶちこわしてくれた。私がムツとした顔をしていると、80才のリンダが近寄ってきて「いろんな人の人生をみられて、面白いでしょう。ビーチではみんな水着で、誰が医者か弁護士かもわからない。だからいいのよね。双子たちにはこれからもイタリアのバカンスを思う存分楽しんでほしいわね」と言った。

イタリアでは、海でのバカンスは若者だけのものではない。80歳のおばあちゃんが素敵な水着をきて、きちんとお化粧をしてビーチで肌を焼き少し泳いで、夏のあいだの友人との会話を楽しむ社交の場であり、こんな風に老後に海辺でゆっくりと楽しむのが最高の幸せなのだ。

だからイタリア人は何歳になっても、浜辺で心臓発作で倒れても、せっせとビーチに通うのである。

(元当館語学受講生)

## 西洋人が見たイスラーム

### ～オリアーナ・ファッターチの場合～

深草 真由子

Giustizia e Libertà という名の反ファシズム運動を率いた知識人のひとりにガエターノ・サルヴェーミニがいる。亡命先のアメリカで、戦間期にあったヨーロッパの危機的状況を根気よく訴えた。〈1933年5月7日、反ファシズム会議、ニューヨーク、アーヴィングプラザにて。歴史学者サルヴェーミニ教授による、ヒトラーとムッソリーニについての講演。イタリアの団体「正義と自由」主催。入場料25セント〉。古本屋めぐりでもしながら見つけたのだろうか、オリアーナ・ファッターチ(1929-2006)はその当時のピラを銀製の額に入れ、マンハッタンのアパートの壁に大切に飾っていた。「正義と自由」に共鳴する父親といっしょに14歳の若さでレジスタンスに参加した彼女にとって、この古い一枚の紙切れの重みは計り知れない。ファッターチは第二次世界大戦後ジャーナリストになり、イタリア人女性ではじめて戦場特派員をつとめ、ヴェトナムや中東など世界各地の紛争地からルポルタージュを発表した。あいまいなポジション取りを良しとせず、はっきり意見をのべる決然とした態度、自分の意志に誠実な生き方、なりふりかまわず我が道を行く性格の強さに、彼女のひとりの魅力、作家としての成功の理由があるが、しかし何事にも妥協を許さず、誰に対しても批判的だった分、「敵」も多い。大いに愛され、大いに憎まれたファッターチ。晩年はイタリアとイタリア人にととう失望し、サルヴェーミニのようにアメリカに「亡命」。2001年9月11日、その日もいつものようにニューヨークの自宅で小説の執筆にいそんでいた…。

*La Rabbia e l'Orgoglio*—アメリカ同時多発テロの衝撃に世界がおののいていたとき、ファッターチが全身全霊をささげて執筆したというその弾劾文は、9月下旬にコッリエーレ・デッラ・セーラに掲載された。取材におもむいた戦地で地獄を見尽くしたと思いこんでいた彼女が、ツインタワーの窓か

らひとり、またひとりと飛び降りるのを眼にしたときの慟哭を「憤激と誇り」の雄叫びに変え、一気に書きあげた文章である(Oriana Fallaci, *La Rabbia e l'Orgoglio*, Rizzoli, 2001)。

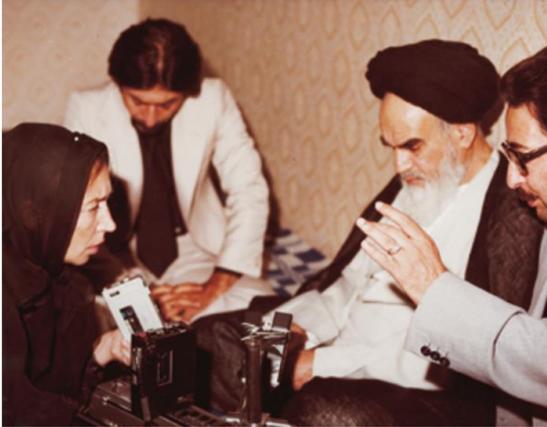


【テロ攻撃を受けたニューヨーク】

画像出典: [https://it.wikipedia.org/wiki/Attentati\\_dell%2711\\_settembre\\_2001](https://it.wikipedia.org/wiki/Attentati_dell%2711_settembre_2001)

今、何が起きているのか。これから何が起きるのか。西洋とイスラームの衝突？ファッターチの眼にはすべてが明らかだった。ジャーナリストとして身をもって経験したイスラームの世界。1979年、真っ黒のチャードルで身体をおおって、イランのホメイニ師をインタビューしたときの彼女の挑戦的な態度と、私刑のリスクを恐れなかった勇氣ある行動はよく知られている。「女性たちにこんなばかばかしい衣装を強要するのはなぜですか？」「西洋人には関係ないことだ。イスラームの服が気に入らぬのなら、おまえは着なくてもよい。そもそも、チャードルは若くてきちんとした娘が着るものなんでね」「なんですって？…それはありがたい。じゃあ今すぐ、こんな中世的なボロボロ布、脱がせてもらいますわ」(Oriana Fallaci, *Intervista con il Potere*, Rizzoli, 2009)。ファッターチはこのインタビューの直前、チャードルを着るため、ある建物のなかに通訳のイラン人男性と二人で入ったのだが、そのことがとんだ問題を生んだ。夫婦でない男女が密室に入ることは禁じられていたため、その男性とその場で結婚(男性は既婚だったので、一夫多妻を許容して結婚)するか、でなければ銃殺されるかという究極の選択に迫られたのである。ファッターチのすさまじい経験はほかにも数えき

れないほどある。ダッカのスタジアムで12人の少年の公開処刑が行われたときのようです。執行後、スタンドの見物人が整然と行列をつくり、順に遺体を踏みに行った異様な光景。イスラエルの空爆から逃れるため防空壕に入ろうとしたファッラーチを、女性だからという理由で拒み、ダイナマイトの保管倉庫に閉じこめたというパレスチナの男たちの侮蔑的な行動…。



【ホメイニ師をインタビューするファッラーチ】

画像出典: [https://it.wikipedia.org/wiki/Oriana\\_Fallaci](https://it.wikipedia.org/wiki/Oriana_Fallaci)

そういうムスリムがヨーロッパに来たらどうなるか。ファッラーチは故郷フィレンツェで目撃した、ある事件について語る。サンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂の広場、洗礼堂のギベルティの扉の真っ正面にソマリア難民らがテントをはったことがあった。数か月のあいだ、マットレスやコンロを持ちこんでそこで寝泊まりし、ジョットの鐘楼からひびく鐘の音をかき消すほどの大音量でアザーンをならし、洗礼堂の大理石の外壁にむけて用を足していた、とファッラーチはいう(このソマリア人にはのちに巨額の罰金が課されている)。わたしはマホメットの廟のまえで主の祈りやアヴェマリアを唱えたりはしない。わたしは彼らの国にいるとき、自分が客でありよそ者であることを一瞬たりとも忘れない。

西洋はイスラームに侵略されているのか。ファッラーチの答えは Yes、ヨーロッパは今や「巨大なアンダルシア」になりつつある。ムスリムの移民は増えつづけ、つねにより多くを要求し、つねにより多くを手に入れ、ますます主人面するようになるだろう。わたしたちを完全に征服するまで。わた

したちの文明を絶やすまで。ファッラーチは西洋のアイデンティティとして、古代ギリシャから現代までの歴史をたどりながら、学問や芸術の諸分野でヨーロッパ人が成しとげた成果をひとつひとつあげる。既成概念を打ち破り、新たな視座の獲得を可能にするようなダイナミックなエネルギーが西洋にはある。それとおなじくらいの独創性と創造力がイスラームの歩みにみられたらどうか？ヨーロッパ人は自分たちの歴史に誇りをもたなければならない。文化を守らなければならない。文化遺産や美術作品を破壊させてはならない。バーミヤンの仏像が爆破されたように！

無神論者のファッラーチがもっとも大切に、持論を展開するうえで根拠としているのは、レジスタンスを戦って取り戻した自由-Libertà-の概念である。旧大陸の啓蒙思想家らになるそれを、フランス革命もまだ起きていなかったころ、ジェファソンのようなインテリだけでなく、ほとんど教育を受けていなかった農民たちもが肌で感じとって立ちあがり、アメリカは独立を達成した。だからこそ、**アメリカは特別な国、うらやむべき国。L'America è Occidente. L'America siamo noi.**

宗教の戒律と国の定める法律は別ものである。神にそむく罪と法律にそむく犯罪は別ものである。そして、そもそも信仰するかしないかは、個人の選択にまかされている。欧米人はこうして自由を享受しているが、であれば、自由でない社会に生きる他人の「不自由」に眼をつぶっていてよいのだろうか。自由を求めてタリバンに対抗したアフガンの「女傑たち」がカブールの広場で処刑され、着せられていたブルカのせいで、路上に捨てられた巾着袋のようにみえた彼女たちの哀れな亡き骸を思い浮かべ、ファッラーチはいう。**正義-Giustizia-から切り離された自由は不完全な自由でしかない。みずからの自由を守ればそれでいい、というのは正義への冒涇である。だから、そう、彼女らの問題はわたしの問題。わたしたち全員の問題なのですよ、紳士淑女のみなさま…**

歴史を大きく変えることになった大量殺戮の余韻のなか、激昂したファッラーチの叫び声はヨーロッパじゅうに甲高く響きわたった。あの9月11日から15年。出版からおなじだけの年月を経た *La Rabbia e l'Orgoglio* は、イスラーム過激派によるテ

口の脅威にさらされている昨今、ふたたび読まれるようになっている問題作である。

*La Rabbia e l'Orgoglio*には賛否両論さまざまな反応があったが、ここでは反論として次の3つをあげておく。それぞれ個性があるが、とくにエーコの理知が際立っている。いずれもインターネット上で読むことができる。

Umberto Eco, *Le Guerre Sante: Passione e Ragione*, La Repubblica, 2001

Dacia Maraini, *Ma il dolore non ha una bandiera*, Corriere della Sera, 2001

Tiziano Terzani, *Il Sultano e San Francesco*, Corriere della Sera, 2001



【オリアーナ・ファッラーチ】

画像出典: [https://it.wikipedia.org/wiki/Oriana\\_Fallaci](https://it.wikipedia.org/wiki/Oriana_Fallaci)

(元当館スタッフ)

## ～会館だより～

### イタリア語 無料体験レッスン

10月より開講の秋期イタリア語講座に向けて、体験レッスンを開催します。入門者向け。事前予約制。

● 京都本校: 日本イタリア会館

9/30(金) 11:00～12:30

10/1(土) 11:00～12:30

● 四条烏丸: ウイングス京都

10/4(火) 19:00～20:30

● 大阪梅田校: 大阪駅前第4ビル

9/29(木) 19:00～20:30

### イタリア語 無料カウンセリング

学習経験者向け。事前予約制。

● 京都本校: 日本イタリア会館

10/1(土) 14:00～ (各人 30分ほど)

### スペイン語 無料体験レッスン

入門者向け。事前予約制。

● 京都本校: 日本イタリア会館

10/1(土) 13:00～14:30

### ポルトガル語 無料体験レッスン

入門者向け。事前予約制。

● 京都本校: 日本イタリア会館

9/30(金) 11:00～12:30

編集・発行 / (公財) 日本イタリア会館

〒606-8302 京都市左京区吉田牛の宮町4

TEL: (075) 761-4356/FAX: (075) 761-4357

E-mail: [centro@italiakaikan.jp](mailto:centro@italiakaikan.jp)

URL: <http://italiakaikan.jp/>